

パチンコ・パチスロ依存問題の予防と解決に取り組む事業・研究への支援

## 「依存症に多様性を活かした予防と解決! 子どもキャンプで交流しよう!」事業

### 依存問題の当事者が協力者や子どもたちと 交流を深めるキャンプを企画・準備・運営

長崎県で20年以上にわたって薬物・アルコール・ギャンブル依存症者の回復支援や当事者・家族などの相談支援を行ってきた団体が、地元の海を舞台に、依存症当事者が主体となった社会貢献活動として「子どもキャンプ」を開催した。多様な人材が集まり、相互交流する中で、依存問題からの立ち直りに欠かせない喜びや達成感を体験することができた。



「子どもキャンプinひらど」の参加者を募るチラシ



放課後デイサービスに通う子どもたちを招待して開催した「子どもキャンプIN平戸」

### ギャンブル依存症回復支援施設の運営や 回復へ向けた事業やイベントを実施

NPO法人「ちゅーりっぷ会 長崎ダルク」は、1999年から薬物やアルコール依存症者の回復支援、および薬物やアルコール問題を抱える当事者・家族・援助者などの相談支援を目的に活動を続けてきた。2006年には、活動を支援する方々を中心となってNPO法人を設立。同年には、無料で相談を受け付ける「眼鏡橋相談室」を長崎市内に開設した。さらに、ギャンブル等の依存問題に対する取り組みも開始し、ギャンブル依存症回復施設「グラフ・ながさき」を開設して回復支援を行うとともに、依存問題を抱える当事者、家族、支援者などの相談支援、依存問題についての社会普及啓発などを行っている。

また、2019年度にはPOSCの前身であるAJOSCの助

成を受け、佐世保市に依存症の相談・回復支援のための出張室を開設したほか、2020年度にはPOSCの助成を活用し、パチンコ・パチスロ依存症者の就労支援に向けたアップパイの製作販売、また2022年度には、依存問題の当事者が楽しみや喜びを感じながら回復を目指すことを目的に、「ながさき海プロジェクト」という事業を実施した。

さらに2023年度も、前年の「ながさき海プロジェクト」と同様に、放課後デイサービスに通う子どもたちを招待して、「子どもキャンプinひらど」というイベントを実施した。このイベントは、大自然の中で魚釣りや料理を体験するもので、同法人のスタッフや依存問題の当事者が主体となって、企画、準備、運営するのが特徴である。子どもたちが通所する施設の職員、遊漁船の船長、釣りのインストラクター、学生ボランティア、看護師などが協力して、実施を支えた。

### 依存症当事者や子どもたちが集まり、 平戸市の海で子どもキャンプを開催

10月7～8日に長崎県平戸市早福町で行われた「子どもキャンプinひらど」には、大人22名、子ども13名の計35名が参加した。当日は雨だったにもかかわらず、子どもたちは遊漁船で夢中になって釣りを楽しみ、釣った魚のさばき方を船長から教えてもらった。これにより、魚食の文化や食育に触れ、魚を食べる喜びや命の大切さを感じることができた。参加者は廃校となった地元の小学校で宿泊し、大人と子どもが交流を深めた。このキャンプの様子は長崎新聞社から取材を受け、新聞記事として掲載した。また、イベント後には参加者の感想を掲載した冊子を作成し、今年2月28日に平戸市文化センターで開催した依存症セミナーなどで配布することで、活動の周知や普及啓発にも努めた。

依存問題の最中にある当事者は、ギャンブルやアルコー

ル、薬物以外のことで楽しむことが難しくなる傾向があるとされ、その結果、孤立して、人間関係の崩壊、借金問題、犯罪などに走るケースも多く見られる。このような状況から距離を置き、新しい生き方へとつなげるためには、社会参加の中で適切な支援を受け、今回のような楽しいイベントに参加することが重要である。

依存問題の当事者が主体性を持ってボランティア活動の企画や実施に関わり、関係者と協力して成功体験を味わうことは、依存問題の当事者の特徴とされる自己中心的で利己的な生き方から利他的な生き方へ変化するための大切な一歩となるうえ、自己肯定や自尊心の向上にも寄与する。また、子どもたちにとっては、幼少期の思い出が将来の生きづらさを克服したり、依存問題に陥らないための予防に貢献することが期待される。キャンプに参加した方々からは、事業継続への願いや事業への協力を申し出る言葉が寄せられている。



子どもたちは遊漁船で釣りを楽しんだ



船長に捌き方を教わる子どもたち

助成団体:特定非営利活動法人 ちゅーりっぷ会 長崎ダルク

<http://nagasaki-darc.com>



### 依存問題の当事者が社会で役割を果たすことで回復につなげる

POSCの助成により、今回のイベントを実現することができ、深く感謝いたします。依存問題の当事者の回復には、人とのつながりが重要であることを再確認しました。また、様々な方に依存問題を知っていただくことができました。私たちは当事者や関係者が依存問題から解放され、生きがいのある生活ができる社会を目指し、活動を継続していきます。

特定非営利活動法人 ちゅーりっぷ会 長崎ダルク  
代表理事 中川 賀雅さん